

科目名	経済と市民生活			ナンバリング	SOC332	授業形態	講義
対象学年	2	開講時期	前期	科目分類	選択	単位数	2 単位
代表教員	吉村忠晴	担当教員					

授業の概要	本授業では、経済学の理論を援用することにより、市民生活に関わる現実の課題を論理的に考察できるようになることを目的とする。授業では、現在の日本において注目されている経済活動に関連する様々な課題を取り上げ、経済学の立場から解説する。その際には、具体的な事例と最新の経済統計を用いて説明する。						
到達目標	1. わが国の経済活動や経済のしくみの特徴とそれらがわれわれの生活に与える影響について説明することができる。 2. 授業で取り上げた経済問題について、それらに関連する統計データや資料を的確に読み取ることができる。 3. 授業で取り上げた経済問題について、その原因や背景、市民生活への影響、今後の課題について考察・検討し、指摘することができる。 4. 2および3について、的確な文章表現、指定された体裁・書式でレポートや図表にまとめることができる。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な 予備知識など)	1. 3年次において「経済学演習1」および「経済学演習2」の履修を考えている学生は、履修することが望ましい。 2. 将来、公務員採用試験の受験を考えている学生は、履修することが望ましい。 3. 新聞等で常に最新の経済動向と経済統計を把握しておくこと。						
ディプロマポリシーとの 関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】						
	○	1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。					
		2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。					
		3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。					
	○	4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。					
	○	5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわしい関心・意欲・態度を示すことができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
①授業で取り上げた経済学の専門用語や経済学の考え方を正しく理解している。 ②授業で取り上げた経済活動や経済のしくみについて関心をもち、それらを現実の市民生活と関連づけて説明することができる。 ③授業で取り上げた経済活動に関連する統計データや資料から、事実を正しく読み取ることができる。 ④指定された書式・体裁にしたがって、正しい日本語表現で課題レポートを作成することができる。	①授業で取り上げた経済活動や経済のしくみを具体的事例を踏まえて理解することで、現実起こっている様々な経済的な課題の原因・背景・対策について説明することができる。 ②統計データや資料から読み取った事実をもとに、問題点を指摘し、その改善策について自分の意見を導き出すことができる。 ③図表を適切に使用し、工夫された表現方法と的確な構成立てによって、他者にその内容が明確に伝わる課題レポートを作成することができる。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験(中間・期末試験)							
小テスト・授業内レポート							
宿題・授業外レポート							
授業態度・授業への参加							
確認プリント	○						10%
練習プリント	○	○					30%
課題レポート	○	○	○		○		60%
出席			○	○			欠席は、減点になることもある。

課題、評価のフィードバック	1. 「確認プリント」、「練習プリント」については、添削もしくは個別指導を行うか、授業において解答および解法の解説を行う。 2. 「課題レポート」については、授業において全体的な講評と改善点を示すとともに、添削もしくは個別指導の後、一旦返却する。 3. 「課題レポート」については、事前に評価基準を示したうえで、学生からの要請があれば、いつでも開示できるように準備しておく。
---------------	--

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	イントロダクション	経済主体(家計、企業、政府)と経済活動	
	第2回	貨幣	貨幣の機能と貨幣の需要	
	第3回	物価	インフレーションとデフレーションの種類、物価変動の影響	
	第4回	金融	金融のしくみと種類、日本銀行の役割と金融政策	
	第5回	国際経済 1	国際収支の構成項目、国際分業(貿易)の利益と比較優位	
	第6回	国際経済 2	為替レートの変動要因、為替レートの変動と貿易収支の関係	
	第7回	まとめ 1	第2回から第6回の授業で取り上げたテーマについての練習問題に取り組み、各自の理解度を把握するとともに復習・要点整理を行う。	
	第8回	労働 1	情報の非対称性(逆選択、モラル・ハザード)からみた雇用と就業の問題	
	第9回	労働 2	労働市場の需給と賃金の決定、失業問題	
	第10回	少子高齢化	少子高齢化の現状とその要因、少子高齢化の経済活動への影響	
	第11回	所得分配	所得分配における格差問題、所得再分配制度と租税制度	
	第12回	企業 1	株式会社のしくみ・特徴、コーポレート・ガバナンス、日本的経営と日本企業の現状	
	第13回	企業 2	企業の社会的責任(CSR)とコンプライアンス(法令遵守)経営	
	第14回	まとめ 2	第8回から第13回の授業で取り上げた市民生活に関わる現実の経済問題について、要点の整理を行う。	
	第15回	課題レポートの作成	第8回から第13回の授業で取り上げた市民生活に関わる現実の経済問題をテーマにして、具体的な事例やデータを示しながら、その原因、問題点、対策、今後の課題についてまとめる。	
	試験	定期試験は実施しない。		
授業の進め方		スライドと配布プリントによる講義と授業内容に関する確認問題、練習問題の実施、および授業のなかで取り上げた経済問題に関する「課題レポート」の作成を行う。		
授業外学習の指示		授業の要点を講義プリントで確認しておく。授業中に行った確認問題、練習問題の結果から自分の理解度を確認し、理解不足の授業内容について復習をする。新聞等で常に最新の経済動向と経済統計を把握しておく。授業中に指示された「課題レポート」の準備を行う。 (授業外学習時間: 毎週 90 分)		

教科書	教科書は使用せず、毎回講義プリントを配布する。なお、配布された講義プリントは、クリアファイル等で整理・保存し、毎回の授業に持参すること。
参考書	特になし。
参考URLなど	特になし。
その他	